

第7回小平市長期総合計画基本構想審議会 会議録（要旨）

開催日時	令和2年6月11日（木）午後3時から午後5時 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小平市中央公民館講座室2、小平市中央公民館学習室1、ウェブ会議に分かれての開催とした。
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・委員 19名 高橋裕子会長 栗山丈弘副会長 伊藤規子委員 加藤順子委員 金子恵一委員 神山敬次委員 川口幸子委員 川地保宣委員 市東和子委員 鈴木庸夫委員 竹田広輝委員 出口みちたか委員 橋本直子委員 古川満久委員 細江卓朗委員 松尾早智子委員 松田肇委員 宮奈彰男委員 矢口誠委員 ・事務局 3名 企画政策部長 企画政策部総合計画担当課長 企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長
会議次第	1 （仮称）小平市第四次長期総合計画の素案の検討
配布資料	<p><u>事前送付資料</u></p> <p>資料1 （仮称）小平市第四次長期総合計画（素案（案））</p> <p>資料2 （仮称）小平市第四次長期総合計画（素案（案）たたき台）に対する審議会意見</p> <p>資料3 小平市第3次行財政再構築プランの中間総括</p> <p><u>当日配付資料</u></p> <p>資料4 6月8日開催小平市長期総合計画基本構想特別委員会要旨</p> <p>【参考資料】市制施行100周年（2062年度）に向けた学校の統合・配置の考え方</p>

講座室2（委員10名、事務局1名）

開会	
1（仮称）小平市第四次長期総合計画の素案の検討について	
会長	<p>本日は新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る措置として、2部屋及びウェブ会議に分かれての開催とし、傍聴は中止とする。</p> <p>まず、策定スケジュールに関して、市議会特別委員会から多数のご質問をいただいている。今までにないような未曾有の事態に今追い込まれてきている中でも、持続可能な社会を創っていく。その為にも2062年を見据えつつ、2032年、どんなビジョンを描いたらよいか。議論を重ねながら進めていきたい。</p>
委員	（了承）
会長	それでは、素案の検討に入る。「序論」についてはいかがか。
委員	8ページの右下の囲み、「教育機関が多様であり、～」とあるが、「多様な教育機関があり、～」の方がよい。また、10ページの「みんなで作る音楽祭」の正式名称は、「みんなで作る音楽祭 in こだいら」である。

委員	10 ページに「沼さらい」の写真が出ている。これを見ると、男性だけがやっているように見えるが、私どもの地区では女性も参加されている。地域住民が男女問わず一緒に取り組んでいるということを伝えてもらいたい。
委員	10 ページの最後の段落で学園西町地区と学園東町地区の地域連絡会が紹介されているが、行財政再構築プランでは小川西町地区の西ネットも入れて3か所としている。
委員	感染症に関して医者立場から、この先まだ分からない部分もあるが、経済や新日常についても触れるとよいのではないか。全てのことを網羅することはできないが、現時点でわかっているようなことは示していく必要があるのではないか。
会長	「基本的な理念」についてはいかが。
委員	「豊かな地域社会を積み重ね」というのがぴんとこない。
事務局	何もしまのまま次世代に受け渡すのではなく、様々な取組の上に受け渡していくということを伝えたい。
委員	「協働により心地よい地域社会を積み重ね」、あるいは「快適な地域社会を積み重ね」としてはどうか。
委員	「豊かな地域社会」を「住み心地よい地域社会」としてはどうか。
委員	「住みやすい」や「暮らしやすい」などのイメージが伝わるとよい。「積み重ね」にこだわるのであれば、「参加型の地域社会」などと踏み込んでもよいのでは。行政だけではできない時代が来るので、若い時から地域に関わりを持つということを進めていきたい。
委員	「積み重ね」というのは社会を積み重ねるというより、皆さんの力を積み重ねるということかと思う。積み重ねて、暮らしやすい地域社会を次の世代に伝えるということではないか。
会長	いただいたご意見を踏まえ、事務局に取りまとめてもらう。次に、「めざす将来像」はいかがか。
委員	案2と案3を合体させて、「共に創り、つながるまち こだいら」はどうか。「つながるまち こだいら」だけではシンプルすぎると感じた。
委員	「つながり、共に創るまち こだいら」などはどうか。案3は分かりづらく長い。
委員	「変わらないもの」も確かに大事だが、一見読んだだけでは分かりづらい。
委員	人と人とのコミュニケーションを大切にしたい。「認め合って、共に創造するまち こだいら」などがよいと思った。
委員	SDGsの「誰一人取り残さない」ということにこだわりを持っている。そういった考えが入るとよい。新型コロナウイルスを受けて、取り残されていく人がものすごく増えていると感じている。なおさら、そういった気持ちを入れていきたい。
委員	案1の「ゆとりを共に創る」はよい表現だと感じた。誰もゆとりなどないわけで、ゆとりを共に創りあって獲得していこうとする努力が大事かと思う。ここに書いてある通り、災害時の備えにもなる。
委員	若い人に「ゆとりを創ろう」といって伝わるだろうか。

委員	若い人には分かりづらいかもしれない。少し前までは「ゆとり教育」というのがあったが、今はまた見直していこうとしている。「ゆとり」をどう捉えるか。
委員	「ゆとり」は本当に大事だと思う。一方でコミュニティが希薄になってきているという課題があり、「つながり」や「共に創る」を大切にしたいという気がする。
委員	案1の「ゆとり」は小平らしさが出ているのではないか。
委員	小平の歴史を考えると、「ゆとり」という言葉が出てきたと認識している。これまでは、色々なものをつくるのに一生懸命がんばってきた。そういう中で「ゆとり」という言葉が出てきたということを記憶している。
委員	心の温かさはゆとりから生まれる。そういった気持ちがないと、福祉のお手伝いをするということにつながらない。ゆとりが根底にあってこそ、人を支えたり助けたりする言葉をかけたり、手を差し伸べたり、ということにつながる。
事務局	これまでの市民参加の取組で市民の皆さんからいただいた「つながり」という言葉を大切にしたいと考えている。人に手を差し伸べるときの心のゆとりは非常に大切な視点。これまでの審議会の中でも、具体性のある将来像をとという意見をいただいている。そう考えたときに、「つながり」の方が行動につながっていくのではないかと考えている。そのバックグラウンドにあるのが心のゆとりという考え方でどうか。
会長	新型コロナウイルスを受けて、Wi-Fi 環境でどこにいてもつながることができる。そうすると、スマートシティというイメージを持つ方もいるだろう。
事務局	身体的な距離によるつながりと合わせて、ICT によるつながりなど、新たな形も構築していかなければならないということも含めた「つながり」としたい。
会長	本日、この公民館の会場とウェブ会議とをつなげられなかったということも、今の時代にミートしていないということ。新型コロナウイルスを受けて、学校教育はオンライン授業をせざるを得ない状況なのに上手くいっていないという報告が上がっているのは残念なことである。
委員	地域が離れていてもつながるといようなことも説明に加わるとよい。今後の具体的な ICT 施策にも上手くつながっていくとよい。小平の計画でありながら、小平から社会につながるとか、世界につながるとか、そういったイメージが持てるとよい。
会長	人と人、人と地域だけではなく、世界ともそうであるし、広い世代で ICT が使えるようになるということも必要になってくる。人口が減っていけば減っていくほど、そういったことが求められる。 市議会特別委員会では、新型コロナウイルスに関するご意見が多く寄せられている。誰一人取り残さないであるとか、つながり方がこれまでと変わってくることなど、好むと好まざるとに関わらず、変わっていかなければならないものが出てくる。そこに対応できるまちでない、魅力的でなければならないということが現実的にはある。 次に、各基本目標についてはいかがか。
委員	基本目標 I の「令和 14 年のありたい姿」に、「65 歳以上が高齢者という意識から転換し」とあるが、「65 歳以上が高齢者という意識が転換し」の方が表現としてはよいのではないか。

委員	民生委員では 70 歳以上の高齢者の全軒訪問を実施している。
会長	高齢者という認識自体が変化するし、多様にもなるので、具体的な年齢は入れなくてもよいのではないか。
委員	基本目標Ⅱくらしづくりの「目指す方向性」に、「誰もが社会に関わるよう社会的包摂を推進し」とあるが、社会的包摂で伝わるだろうか。
事務局	インクルージョンでは伝わらないのではというご意見があり、このようにした。
委員	性別役割分担意識にとらわれないことや、DV、ハラスメント、セクシャルマイノリティのことなど、もう少し具体的な取組として入れていただきたい。
会長	例えば、基本目標Ⅱくらしづくりの「令和 14 年のありたい姿」に「年齢の違い、性別の違い、障がいの有無」とあるが、「年齢の違い、性別や性的指向の違い、障がいの有無」とするだけでも、セクシャルマイノリティに対する意識があるということを示すことはできる。全てはいわなくても、アンテナを張っていますと言えたらよいのではないか。
委員	性自認という言い方もできる。
委員	同姓パートナーシップ制度が全国 51 区市町村で導入されている。今年度導入が 11 区市町村ということである。小平市もこの 12 年間でそのような流れになっていくのではないかと思う。
会長	小平市に隣接するまちでは、性的指向のアウティングによって命を落とした学生がいる。性的指向によって排除しない、性的指向の多様なあり方を包摂する、ということ小平市として示すことは必要ではないか。
委員	市議会特別委員会のご意見の中に、「子どもの権利」を入れていただきたい、というのがあった。子どもは大人と同じ権利の主体であり、大人と同じ人権を持っているんだということを、どこかに入れられるとよいのではないか。
事務局	方針 1 の中で、「子どもを真ん中に置き」として、子どもを中心に考えるんだということを示したが、どういう表現がよいのか。
委員	一般的には、子どもはとても大切にされている。一方で、虐待などの問題が深刻化している。子どもはちゃんと育つ権利があるのに親や周囲がその権利をないがしろにしている事実もある。
会長	「真ん中に置き」というと抽象的なので、具体的に表現することも必要。基本目標横断プロジェクトについてはいかがか。
委員	20 万人市民のために 20 校小学校をつくることを目指し、それに近づいたが、今度は 14 万人になる。そうなる時に学校も変わっていかなければいけない。人が減っていくのに学校だけを残していても仕方がない。しかし小さくするときは大変。コンパクトシティというけれど、そこに持っていくための意識の転換が大変。新たな拠点としていくには、早くから行政として取り組んでいく必要がある。
委員	小学校を地域の核としてコミュニティを創っていくこと自体はいいこと。同時に NPO などは地域でまとまるというわけではなく、仮想のコミュニティを創っているので、両面があるとよい。2062 年頃を考えると、小平市が小平市のままなのか

	も分からないので、距離的なコミュニティありきではない方がよい。
委員	今回の新型コロナウイルスを受けて、災害ボランティアなど、他市や他県等から頼める状態ではなくなることもある。まずは自分達の地域で助けあわなければならないということも忘れてはいけない。ネットワークでつながるということも大事だが、基本は隣から始まって地域でがんばるということを頭に入れておく必要がある。
事務局	自治会の組織率が低いということが課題になっている。先日の市議会特別委員会でも、今の若い人たちは地域というくくりがない中で暮らしてきていて、ここから地域コミュニティとって、基本目標横断プロジェクトに掲げたことが実現可能なかというご意見もいただいた。この審議会の中では、リモートワーク等が進んで、地域に若い方がいてくださる時間が増えるのご意見をいただいている。しかしながら、その仕組みをどうつくるか。
委員	16年間自治会長をやっている。一番のネックは個人情報である。若い人たちは、自分のことを知られるのをすごく嫌がる。自治会として行事をやっているが、行事がいかに大切かを感じる。もちつき大会やうどんづくりなど。
委員	小平第十三小学校を中心に、たいよう福祉センターや小川ホーム、都立特別支援学校とも協力して防災訓練を始めて10年が過ぎた。子どもたちのために、と協力してくれる若い人がとても増えた。そのように積み重ねていかないと急にはできない。自治会といっても無理である。個人情報はある程度民生委員に任せるのがよいのではないか。個人情報がなくともできる。そこに集まった人が輪になる。
会長	自治体経営方針についてはいかがか。
委員	35ページの「行政の役割」に、「また、市民等が自ら解決できない地域課題を行政に委ねるといった考え方を基本とし、」とあるが、唐突に感じた。当然のことながら、国や東京都から法律などで降りてくるような仕事は行政でしかできないこと。市民が自主的に、「私たちがこの人たちを助けてあげたい」といって市民が動いて、後から行政がついてくるというケースもあるし、これからそういったケースを増やしていかなければいけないと思う。また、36ページの「職員の能力を引き出す市役所」は、前は「多様な職員が活躍する市役所」だった。職員が能力を出していないように思える。
委員	それぞれの部署で、職員の能力を引き出す努力は一生懸命やっていると思う。
委員	多様性でないなら、もう少し表現を変えたほうがよいのではないか。今回の新型コロナウイルスでも、かなり対応が大変かと思う。そういったことに、センサーを張って対応できる職員といったようなことではないか。
委員	職員と市民の接点がとてもあるような部署もあり、コミュニケーションをとりながら共に進めているということがよい。能力という点と違うのではないか。
会長	素案（案）についての必要な確認事項は以上となる。 本日は会場が分かれての開催となり、各部屋でどのようなご意見が出たのかは事務局の方で会議要旨としてまとめていただくので、ご確認いただきたい。

学習室1（委員6名、事務局1名）

開会	
1（仮称）小平市第四次長期総合計画の素案の検討について	
副会長	本日は新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る措置として、2部屋及びウェブ会議に分かれての開催とし、傍聴は中止とする。まずは事務局から報告をお願いする。
事務局	市議会特別委員会から策定スケジュールに関して多数のご意見をいただいている。
委員	新型コロナウイルスについては、今後どうなっていくか分からない様な状況である。3か月間経過した中で日本の新しい生活様式が提案されているが、計画を根底から作り直すのではなく、これまでの小平の歴史を踏まえた中で、新型コロナウイルスに関してある程度修正を加えながら対応していくことがよいのではないかと。
委員	アフターコロナは自宅や地元で仕事ができる方向性になる。素案（案）にあるようなSociety5.0、小平の緑、そういった部分について、生活の基本的な部分が揃っているという小平市の良さを、色々な場面で声を出していくとよい。全体構成をまるっきり変えるというのでは無く、今回の新型コロナウイルスを教訓に、小平の良さを加えていけるとよい。
副会長	必要に応じて対応していくということで進めたい。「序論」についてはいかがか。
委員	新型コロナウイルスは災害に準ずるもので、素案（案）にある「自然災害や気候変動に対する安全安心への対応」に追加できるとよい。
副会長	「基本的な理念」についてはいかがか。
委員	「豊かな地域社会を積み重ねて」を、「魅力あるまちづくりを積み重ねて」としてはどうか。基本目標Ⅲの「自然と調和した、快適で、魅力あるまち」につながる。
委員	「豊かな地域社会」を「持続可能な地域社会」としてはどうか。持続可能な地域社会とは、将来にわたって健全に、豊かに継続できる社会という意味合いであり、持続可能な地域社会を皆で創っていくという内容が含まれるとよい。
委員	「地域社会を積み重ねて」は10ページで述べているように、協働の活動が積み重なるということだろうか。
副会長	「協働の積み重ねにより、魅力ある又は持続可能な地域社会を創出し」なのか、「地域社会をつくり」なのか、そういった言葉が必要ではないか。
委員	新型コロナウイルスなども含め、変化に強いであるとか、新たな価値を作り上げていくといった意味合いも込め、持続可能であるという事は重要であると思う。
事務局	このグループとしては、持続可能という表現を使うということでまとまったかと思う。別グループの議論も踏まえ、事務局に整えてもらうこととする。
副会長	次に、「めざす将来像」についてはいかがか。 案が3つ示されている。ここから1つ選ぶということではないが、まずは意見交換をしたい。
委員	ふわっとしている印象を受けた。
委員	案3を中心に考えた。「変わらないもの」には、文化も歴史も踏まえて変えてはならないもの、守り育てていかなければいけないものを総称して使われたのかと考えた。

	<p>「変えていくもの」には、生活様式がどんどん変わっていくであろうという事が将来的にあり、そういった変化の中において、変えていかなければならないものが出てくる。都市計画の関係ではコンパクトな中で開発していく、みんなの力で開発していくというのがあり、総称して変えていくものをみんなで一緒に創っていこうということ表現されたのではないかと受け止めた。ただ、「変わらないもの、変えていくもの、共に創ろう 小平のまち」ではなく、「共に創るまち こだいら」とひらがなを使った方が受け止めやすいのではないかと。</p>
委員	<p>案1と案2に近い考えである。過去の歴史、そして未来に向かっていくもの、そういう時間軸も非常に重要だと思うので、「共に創る」という表現が非常によい。また、市民自治ということを考えると、「一人ひとりが主体的に」などのイメージが入るとよい。</p>
委員	<p>「共に創るまち こだいら」とすると、きちっと着地ができる印象がある。</p>
事務局	<p>つながりを大事にしたいということや、小平市は今でも十分いいまちで、変わらない守っていくところもあれば変えていくものもあるだろうといったようなことが、これまでの市民参加の取組などからも伺えて、3つ提案させていただいた。多くの方に共感していただける将来像になるとよい。</p>
委員	<p>基本目標Ⅰ、基本目標Ⅱ、基本目標Ⅲを総括する様な、集約される言葉はどれか。</p>
委員	<p>渋谷区は、「ちがいを ちからに 変える街」を将来像としている。多様性を訴えた中での渋谷を創っていこうということである。小平市は自治基本条例の中に「違いを認め合い」とあり、自治基本条例が施行された平成21年から違いを認めていくんだということが盛り込まれていた。その自治条例を基本に据えながらこの基本構想をまとめられるという事は、非常に素晴らしい。</p>
委員	<p>今回の新型コロナウイルスや今後も様々な事案が起こってくる中でどう対応していくのか、正に時代の変わり目の中で、変えるもの変わらないものというのはマッチしている様な感じもする。</p>
副会長	<p>案2については、「つながる」という事自体が目的では無く、つながる事によって、何かを生み出したり、力になったりするための手段ということではないか。人が輝く様なイメージであるとか、前向きになれる様なイメージ、生きてるつながりという事の様な気がする。</p>
委員	<p>案2と案3を組み合わせて、「つながる 共に創る こだいら」と並べるのもよいかと考えた。</p>
副会長	<p>ここのグループでは、「つながる」、「変わらないもの 変えていくもの」、「共に創る」を中心に意見を交わした。他グループの意見も合わせて、事務局に調整を行っていただく。次に各基本目標について、現在肉付けされている内容について過不足がないか確認したい。</p>
委員	<p>基本目標Ⅲの「令和14年のありたい姿」の3項目目、7項目目、8項目目にあるように、コンパクトシティの形成の中で、豊かな交流や農産物のマーケット、歴史をうまく取り入れながら、コミュニティ空間を創る事によって、まちが非常に生きる</p>

	のではないかと。1つのコンパクトシティを、みんなの力で創り上げる様なシステムができるとよい。
委員	小平市は狭山境緑道や玉川上水といった大動脈にたくさん人が歩いている中で、縦横様々な道があり、用水路もあり、散歩したくなる道がたくさんあり、対流性があると思っている。ただ、現時点では公園などを市民がもっと気軽に、マーケットなどに使える場所や仕組みが不足している。コミュニティが対流して交流が生まれたり、地域の方々と相対する様なありたい姿を目指して、市民が使える開かれた公共施設や公園などがあるとよい。
委員	方針8に、都市計画マスタープランで目指そうとしている鉄道駅を中心とした利便性の高い生活圏の形成について、もう少し言葉として盛り込めるとよい。
委員	方針8の交通でいうと、最近では鉄道や道路、車だけではなく、自転車やタクシーも利用もしやすい形になってきている。既存の大きなインフラを整備する交通だけでは無く、細かい移動ができる話を入れた方がよいのではないかと。MaaSと呼ばれる形で交通のICT化が進んでいる。自転車に関しては、小平は平らなので、ますます自転車が利用しやすくなる環境については非常に重要ではないかと。
委員	基本目標II「令和14年のありたい姿」の2項目目に「ワーク・ライフ・バランスが実現し」とある。テレワークやサテライトオフィスまではなかなか捉えにくいのかかもしれないが、デジタルトランスフォーメーションなどの観点から、小平ならではの肉付けができるとよい。
事務局	テレワークが進むと小平市にいながら環境も楽しめ、農産物も身近に手に入る。そうすると小平の魅力をどう高めておくかということが強みになってくる。そのためには駅の利便性を高めつつ、その周辺の緑を維持して、回遊性や対流を生み出すことが必要である。これから大きな公園が2つ整備される計画になっている。特に鷹の台公園は学生が多い場所であり、民間のパワーを活用したり、みんながイベントをやる様なスペースをつくるなど、より賑わいのある拠点作りにもつながっていく。グリーンロードにも近いので、いろいろな人も呼び込みながらくつろぐ空間づくりを今後やっていくことを見せることも必要だと感じている。大きな方向性としてよりメリハリをつけて、魅力をアピールする事は考えられる。
委員	世界はデジタルトランスフォーメーションと言っているが、小平市も西多摩地域でサテライトプレイスなど、小平市ならではのテレワークの拠点について特色を出せるとよい。実行プランのレベルかもしれないが、方向性として基本構想に入っているとよい。
委員	テレワークという働き方が進めば、例えば近隣だけではなく離れたまちや世界と、1年間2年間お互い人材を交換しあって、それぞれの地域の産業を交換しあうということも考えられる。他の地域との連携という観点は重要かと思う。
委員	方針9の分野に商工業があるが、産業の方がより適正ではないかと。
副会長	基本目標横断プロジェクトについてはいかがか。1点目は防災減災という観点で、新型コロナウイルスに関して肉付けができる観点かもしれない。2点目は新たな地

	域拠点とコミュニティの創出で、単体したコミュニティではなく、また地域のつながりについても議論を深めていきたい。
委員	災害だけではなく、大きな意味で危機管理という観点から新型コロナウイルスに関して触れられないか。
事務局	国土強靱化の考え方も踏まえて示す部分であるが、新型コロナウイルスに関連する内容として、多重災害の対応について触れている。それとは別に感染症に関してということになると広がりすぎるということもある。検討させてもらいたい。
副会長	感染症のリスクは気候変動と密接に関係している。気候変動によって今まで無かったようなウイルスを媒介する生物があったり、共に暮らしていく様になったり、自然災害と結びつかないかもしれないが、接点が無い訳ではない。
委員	感染症災害として個別の行動マニュアルを作っているケースもある。今は新型コロナウイルスが当然危機としてあるが、そもそも世界で起こりうるパンデミックとして強毒型インフルエンザがあり、日本国内で最大で64万人位が死亡するという推計があった。新型コロナウイルスだけではなく、将来的に起こりうるパンデミックに関してはどうやって立ち向かっていくのか考える必要はある。
事務局	感染症に関しても備えておく必要がある。しかしながら、ここに示している基本目標横断プロジェクトとは違う取組になってくるので、別の形で示す必要がある。
副会長	くらしづくりの中で示すということも考えられる。規模は別として、SARS や MERS など、10年周期くらいで感染症が起こっている。
委員	防災減災に関しては共助の部分が強いと思っているが、市内の事業者の防災減災に関する役割については言及しないのか。事業者が地域を担う様な役割についても期待されている部分があると思う。具体的な連携についてはいかがか。
事務局	例えば、建設業協会などには道路がふさがった際に出動してもらったり、水道業者には断水した際に駆けつけてもらうなどの協力関係がある。事業者と協力して地域全体を守るという仕組みはある。また、年に1回総合防災訓練を実施しており、市内事業者が様々なデモンストレーション行い、市民に取組の周知を図っている。
副会長	市の防災計画に沿って、関係機関が連携していると認識している。農地も一時的な避難施設としての役割がある。都市農業が盛んである小平市として特筆すべき点ではないか。地域拠点とコミュニティの創出に関してはいかがか。
委員	公共施設マネジメントでは、小学校に様々な施設を集約化するということであるが、公共施設を拠点にするという発想を変えてもいいのではないか。建物を公共で維持するとなると財政負担が出てくる。避難場所ということでは話は別であるが。民間の力をどれだけ活用していくか、企業等とタイアップしながら民間施設を公共空間として使うという形もある。その地域地域で様々な資源があるので、その資源をうまく活用しながらコミュニティを創っていくことが重要ではないか。公共がすべて準備しなければいけないという発想は切り替えていく必要がある。
副会長	小平市も問題意識としてはそういった考え方があるのだと思うが、そこまで踏み込めていない。

事務局	<p>公共施設マネジメントは、今ある施設の総量を減らすということが根底にある。各施設を集約しながら、全体のニーズに合わせてコンパクトにしていくという方向性である。そうした時に拠点となるのは、親しみやすく距離的にも分かりやすい学校であると考えている。学校の建替えに合わせて、周辺にある地域対応型の施設を集約する事によって新しいつながりや新しい活動拠点を生み出すことを目指している。小平第十一小学校がそのスタートとなる。小川駅の再開発事業における公共床も、いくつかの施設を複合化する方向性である。全体の床面積を減少させ、新しい賑わい創出や新しいコミュニティづくり、民間の活力、という事も同時に考えている。今は新型コロナウイルスの影響でネットワークを使ったコミュニティにスライドしている部分もあるが、近隣で声を掛け合ったりといったことは必要である。コミュニティのあり方も2つの柱が出てくると思っている。</p>
委員	<p>PFI や PPP をしっかり活用していく話になろうかと思う。ハードや場所だけの話ではなく、ソフトやコンテンツといった運営にも民間の活力といった視点が入ると、具体的に横断した話になってくるのではないかと。行政の仕事を市内の事業者が引き受けることによって、企業市民という主体性が生まれてくる。</p>
副会長	<p>自治体経営の視点に民間の活力といったキーワードが入るとよいのではないかと。</p>
委員	<p>今の自分の暮らしの中では、公園やあるお店の駐車場でコミュニティができています。手作りの屋台を並べてマーケットを開いたり、週1回カレーのキッチンカーを出したりしている。そういった開かれた場所にたまたま通り過ぎる人達が寄ってくれて、今まで接点の無かった人が集まって知り合いになる。自分なりにそれが新たな公共施設であり新たなコミュニティの場と感じている。そうした時に、公園にちょっとした倉庫など、小さいマイクロ公共施設みたいなものが、拠点、拠点にあると、使いやすい。</p>
委員	<p>公園は一定の枠の中で倉庫など置けるようになってきている。しかしながらその運営と維持管理についてのルールづくりが重要になってくる。</p>
事務局	<p>公園等については、花の管理などに取り組んでくれている団体等もある。そういった団体等にインセンティブとして、もう少し自由に使ってもらえるようにする方法も考えられる。花の手入れをしてもらうことによって、公園を楽しめる人も増えることになる。多少制約はあるが、都市計画公園は結構緩和されて、民間の力も借りやすくなっている。</p>
副会長	<p>自治体経営方針についてはいかがか。先ほどまで議論していただいた各基本目標のありたい姿に向けて、着実に進めるための枠組みを示した部分である。</p>
委員	<p>ICT 社会への対応が示されているが、教育現場での ICT 推進の考え方もここに示されているということでしょうか。</p>
事務局	<p>今回の新型コロナウイルスによって、学校教育における ICT が加速化した。小平市でも数億円単位の補正予算を組んで環境を整えていく。また、市民サービスにおいても ICT の活用を増やしていくという方向性を見据えている。</p>
委員	<p>ICT 社会の対応については、職員のテレワーク推進も入っているという理解でよい</p>

	か。
事務局	そういった事も含めて取り組んでいく。
副会長	第3編の長期総合計画の考え方についてはいかがか。
委員	第四次長期総合計画が策定されると、基本構想に合わせて計画変更するのか、期限が来たものから修正を加えていくのか。
事務局	基本的には計画期間が到来した時に、基本構想との整合性を図っていく。中間見直しをするものもあり、その場合は見直しが必要であれば、そのタイミングになる。
委員	40 ページの上段に、「分野横断した施策の展開」とあるが、新型コロナウイルスに関しても、必要があれば分野横断的にプランとして示すことができるということではないか。
事務局	基本構想では3つの基本目標と9つの方針を示しているが、分野をまたぎながら取り組むということを示している。
委員	個別の計画を進める時に、部署間の横断だけでは無く、市民協働の推進も必要である。そうしたことの広報などを担当する部署はあるのか。
事務局	担当部署はあるが、現在はあらゆる分野で協働に取り組んでいる。
委員	骨子案に対する30代意見が0だったということにも関連するが、まちがどのように動いているのかをしっかりと伝わる形で広報することが、今後重要になってくるのではないか。
副会長	本日予定していた内容は以上である。皆さんの協力によりよい議論ができた。

ウェブ会議（委員3名、事務局1名）

開会	
1（仮称）小平市第四次長期総合計画の素案の検討について	
事務局	本日は新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る措置として、2部屋及びウェブ会議に分かれての開催とし、傍聴は中止とさせていただいた。まず、策定スケジュールに関して、市議会特別委員会から多数のご質問をいただいている。
委員	現在進行形で、このコロナ禍の渦中で計画が策定できることは価値があることと考える。ゼロから作る必要はないが、新型コロナウイルスも踏まえつつ、より明確なビジョン、どのようなまちづくりができるのかという深堀りができるとよい。
委員	理念も将来像も、新型コロナウイルスに影響されるような内容ではない。ビジョンに向かうための実行部分、対応方法で、新型コロナウイルスの影響は大きく出るのではないか。
委員	この先何が起きるかわからない。新型コロナウイルスの影響は、個別の対応において大きいものだと思う。
事務局	「序論」についてはいかがか。
委員	新型コロナウイルスの影響で住宅地に人が多くいたということで、小平市内の商店会も5月は逆に賑いもあった。産業を応援し、市外に行かなくともまちの中でやりくりできる環境整備ができるとよい。

委員	序論はもともと完成度が高いと感じていた。表紙等、最終的にはデザイナー等に頼むのか。
事務局	冊子にする際にはデザインを含めて委託する予定である。「基本的な理念」についてはいかがか。
委員	主語が「わたしたちは」で、その後がすごく長い感じがする。上2行と下2行で分けて、例えば、3行目は「そして、私たちは「こだいら」の～」などとしてみるとか、上2行に合わせて下2行でも「～のために、～をする」という表現にするとよいのではないか。
事務局	「めざす将来像」についてはいかがか。
委員	3案ともによい。
委員	「共に創る」を強調したいと感じた。
事務局	各基本目標についてはいかがか。
委員	基本目標Ⅱの「令和14年のありたい姿」にある、「世代間の交流が進み、地域の課題が広く共有されるとともに、ICTによるネットワーク形成がつながりの新たな形として定着し、地域活動への参加が促進されています。」や「時間や場所にとらわれない働き方が進んだ現役世代は、家庭や地域に滞在する時間が増え、ワーク・ライフ・バランスが実現し、身近な分野でコミュニティを支える中心となっています。」はとてもよい。
委員	方針2の健康づくりについてが抽象的すぎるように感じた。何か全世代で取り組める健康づくりのイメージがもう少し湧くとよい。方針3も、例として何か、あるいはイラストや写真でも、小平らしさやまちの誇りとは何か、のイメージが湧くような部分があるとよい。
委員	今の小平市は幸い人口が増加しており、未来のあるまちである。商業・産業を応援して、この未来あるまちの活気を失わせないようにしてほしい。小平市は農地も多いので、流通を強化してある程度の地産地消が実現できると良い。地域の店においても、もう少し物品をストックできる状況が作れると、有事にも対応しやすくなる。ファッションなどは弱い部分だが、小平市は生活に密着したまちとして盛り上げていけるとよい。
事務局	基本目標横断プロジェクトについてはいかがか。
委員	横断プロジェクトというのがまずよいと思った。防災について、我々とはかく、直近の災害に気持ちがいきがち。この審議会でも、前回は台風のことが話題になっていた。今なら新型コロナウイルスに目がいく。その点、このページでは、もう少し広い視点で記述されておりよい。
委員	公共施設マネジメントと新たなコミュニティ形成を両立していく方向ということで理解した。そのような方向性がある程度決まっているのであれば、小学校の魅力が向上することはファミリー層にとってのまちの魅力向上にもつながるので、積極的に強調していてもよいのではないか。私は小平第二小学校の出身で高齢者交流室を知っているが、小学校に公共施設を複合化していくというのがそのようなイメー

	ジだとするととてもよいと思う。
委員	今後まちが小さくなっていく。私は小平第十四小学校のコミュニティスクールの会長もしているが、学校を中心にまとめていくという方向性について、まだ伝わっていない面もあるのではないか。小学校は近い所と遠い所も出てくるようになると考える部分もある。小学校は、避難所としての機能もあるので、感染症流行時においても避難すべきかどうか等、考えを深めていく方がよい。
委員	私は小平第五小学校に関わって活動している。小平第五小学校は、近隣の人口増加で児童数も増加傾向にある。子どもが増えることは活気につながる。「まちづくりの視点」で、駅について「交流を生み出す場」とあるが、わかりにくかった。
事務局	小川駅西口再開発事業なども踏まえ、単に電車に乗るための通過点でなく、賑いの拠点となる部分についてイメージした記述である。
委員	駅前など賑いについて、もう少し踏み込んだ表現があればと思う。あかしあ通り沿いの細長い土地など、放っておけば、相続で虫食い状になってしまう。他にも、市内で大きな土地を確保できそうな部分について、市としてまちづくりの観点からどのようにビジョンを描くのか見えるとよい。鎌倉公園も、あれだけの広い土地を公園にするのだから、単なる家庭菜園ではなくマルシェができるようにするとか、あるいは商業施設の誘致など、空間をよりいかした活用をしてほしい。私は、個別計画の委員もいくつかやっているが、個別計画を推進するためには、上位計画に位置づけることが必要である。
事務局	市としては、人口減少、それに伴う財政問題、公共施設老朽化等、開発と保全のバランス等、変化の岐路に立っている状況を踏まえ、どこにより財源をあてていくのか、あるいは市民等も含めて、どこに向かうのか、その大きな指針をつくっていくことになる。いただいたご意見も、その中で反映できればと思う。 自治体経営方針についてはいかがか。
委員	模式図等もあり、見やすくまとめているとは思いますが、やや難解な文章が長く続くので、もう少し簡潔でもよいように感じた。
委員	お堅い印象を受ける。導入の部分で、全体の要約を平易な文章で入れるなどワンクッションあると、もう少し入りやすいように感じた。
事務局	第3編の長期総合計画の考え方についてはいかがか。
委員	この基本構想はあくまで小平市に着目して議論を積み上げてきたもの。それを、SDGsの観点でみると、このように結びつけて見ることもできること示していると認識した。
事務局	本日確認していただきたい内容は以上である。他のグループの意見も合わせて要旨としてまとめるので後日確認していただきたい。